



会報第120号
平成24年2月20日発行
阿戸地区社会福祉協議会
福島センター内
電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口
世帯数 952戸
人口 2,358人
男性 1,162人
女性 1,196人
(平成24年1月末現在)



2012年元旦、今年も「阿戸町駅伝大会」が開催されました。

各町内会から選抜された7チームの選手が新春の阿戸町を駆け抜けました。

新年にあたつて

阿戸地区社会福祉協議会 会長 松田 康憲

昨年は、忘ることのできな
い年となりましたが、今年こそ
は良い年であることを願つてお
ります。

さて、阿戸町も少子、高齢、
人口減社会に向かつております。
これに対応するためにも昨年四
月、新たな取り組みとして四つ

の部会を設置し、理事・評議員、
ボランティア等の参加を得て、
みんなで阿戸の福祉を支えてい
くことといたしました。

おかげで部会の中では、それ
ぞの立場から活発な意見、ア
イデアが出され、新しい発想も
取り入れながら事業を推進して
いくことが出来ております。
大変喜んでいるところで
す。これも皆様のご協
力のお陰であり感謝申し
上げます。

こうした中につけて、
今年は二十三年度実施し
た事業の反省点や町民の
皆様の意見等を反映した
新たな事業も計画したい
と考えております。

今後とも、お互いが助
け合い、支え合い、ふれ
合い、子どもから高齢者
までぬくもりのある阿戸
町を目指していくことが
重要であると思っており
ます。

今年も皆様方のご指
導、ご支援、ご協力を賜
りますよう、お願ひ申し
上げます。

福祉活動勉強会に 参加して

地域福祉部会 景山 香葉

十月二十一日、社協役員（理
事・評議員・幹事）を対象とし
た勉強会が開催されました。

講師に「あと会」の近藤弘美

様をお招きし、福祉現場での

数々の経験を基に、福祉の状況

指していきたいものです。

最後に勉強会で、認知症の母の

心をうたつた詩が紹介されまし
た。

この詩にうたわれて
いるように無償の愛、
心で一人ひとりに接す
ることこそ福祉の原点
ではないでしょうか。

やり方について、お話をいた
だきました。

福祉活動とは、自分自身がよ
り生活しやすくなる為の活動、
誰もが人間らしい生活が送られ
るようにする為の活動です。こ
の活動を通して、住民一人ひと
りの豊かな暮らしを実現させる
為に、支え・支え合いの町を目
指していきたいものです。

最後に、認知症の母の

心をうたつた詩が紹介されまし
た。

この詩にうたわれて
いるように無償の愛、
心で一人ひとりに接す
ることこそ福祉の原点
ではないでしょうか。



この詩にうたわれて
いるように無償の愛、
心で一人ひとりに接す
ることこそ福祉の原点
ではないでしょうか。

中学一年生と高齢者のしめ飾りづくり

児童・障がい児者部会

景山 子



阿戸中学校二年
不藤 江南

平成二十三年も暮れに近い十二月十五日、福祉センターにおいて、中学二年生と高齢者との「ふれ合いしめ飾りづくり」を実施しました。何かと気ぜわしい時期に、老人クラブをはじめ、民児協・ボランティアグループ等の皆さんのご協力をいたしました。

加えて、十二月十三日に予め、手はずの練習・確認をしたうえで、本番に臨んでいただきました。感謝申し上げます。

おかげさまで中学生や先生及び保護者の方々の評判もよく、それぞれのご家庭の玄関先を立派に飾り、輝かしい新年を迎えられたことと思います。

私ははじめてしめ飾りを作りました。地域の高齢の方と一緒に作りました。最初はわらを四十本ずつに分けました。四十本ずつに分けたものをわらで仮止めをした後、アンコをいれました。アンコを見た時はとても驚きました。「縄を使つたんだよ」と地域の方はおっしゃいました。実際に縄に使うわらとアンコを比べてみ

ても柔らかく、縄に使うわらはとても固かつたです。同じわらなのにこんなに違うんだと思いました。

縄を作る時とても力がいるのでとても疲れました。地域の方に「顔がほんのり赤いよ」と言されました。

しめ飾り作りは大変だけど、地域の高齢者の方々とふれあえて良かつたと思います。正月に私の作ったしめ飾り作る時は、赤と白のひもでつけると、とてもうれしかつたです。しめ飾りはとても力がいることがわかりました。

折尾さんのおかげでいいしめ飾りを作りました。

阿戸中学校二年
沖本汐莉奈

五・六時間目に地域の方としめ飾りを作りました。

是松君といっしょに教えてもらいました。教えてくださった方は、先生だったのに、あまり作ることができなかつたけど、とてもわかりやすい説明をして下さいました。

最初に少しねじつた方がいいとか、アンコが出ないよう気にをつけるとか、根のところをきれいに合わせてからねじりはじめると、アンコの先や縄の先はななめに切るとか、少しとび出たわらはきれいに切るなどいろいろなことを教えていただきました。

他にも、東北や九州では、しめ飾りの作り方はちがうということ、広島でも福山の方は少しちがうことも教えてもらいました。

最後に、かわいい飾りをつけ bekommen。ダイダイをつける時は、赤と白のひもでつけると、とてもうれしかつたです。しめ飾りはとても力がいることがわかりました。

中学二年生と高齢者との交流会

児童・障がい児者部会

松田 英子

深秋の十一月十六日、老人会・ほことり会・民児協等の協力を得て、中学三年生と高齢者の交流会を開催しました。今回の交流会の特徴は、福祉センターホールを五テープルに分け、ホールまでの案内、

全て生徒達が責任を持ち、交流を図ったことです。自己紹介から始まり、昔話から現在の出来事まで、話に花が咲き、生徒達は高齢者の方の話に目を輝かせ、高齢者の方は、生徒達から元気なパワーをもらいました。

阿戸中学校三年

坂口 美樹

阿戸中学校三年

廣津 彩

なことだと思います。前の答えを聞き、そう思いました。

この交流を通して、昔の事など色々な事を知り、地域の方とも関わりを持ってたので良かったです。

高齢者との交流会がありました。あまり関わることのない高齢者の方たちとたくさんのお話をできるので楽しみでした。

高齢者との交流会がありました。あまり関わることのない高齢者の方たちとたくさんのお話をできるので楽しみでした。

まず最初に「学生時代はどうでしたか?」という質問では、戦争の話が中心になりました。私はその質問で戦争の話をしました。私はその質問で戦争の話がでるとは思いませんでした。今とすごく違います。びっくりしました。空襲警報などがあり、こわいなと思いました。制服もセーラー服が三角エリになつたことも知りました。今は平和危险だと思いました。次に「幸せな事は何ですか?」という質問には、「人それぞれだよねえ」とおっしゃいました。私は平和

くならず、それから今もずっとハンバーグが食べられないという話も聞きました。他にも、一番樂しかったことの話が一番樂しかったそうです。勉強をしつかりやつたほうが良いと言われました。

高齢者の方と交流をしていろんなことが聞けたりしてすごく楽しかったです。

くならず、それから今もずっとハンバーグが食べられないという話も聞きました。他にも、一番樂しかったことの話が一番樂しかったそうです。勉強をしつかりやつたほうが良いと言われました。

高齢者の方と交流をしていろんなことが聞けたりしてすごく楽しかったです。

高齢者・ボランティア部会

阿戸中学校三年

行武 しおり

「こんにちは おげんきですか」の声かけをしながらの配食サービス。手作りのお弁当を持つての訪問です。阿戸地区社会の見守りの一環として始めて二十六年になります。病弱な一人・二人暮らしのお年寄りに月

かづたことや、名言みたいな話を教えてもらってとても楽しめたです。高齢者の方たちの案内をして、合唱をしました。この時は、ピアノをあまり失敗せずにできてとてもうれしかったです。

その後、班にわかれて話をしました。私たちと高齢者の方たちの自己紹介が終わり、質問をたくさんしました。昔の阿戸の話を聞かせてもらった時、昔の子どもたちは、自分たちで遊遊びを決めていたり、朝から夕方まで帰らなくて親に怒られました。私たちと高齢者の方たちは、自分たちで遊遊びを決めていたり、朝から夕方まで帰らなくて親に怒られました。予定より多くの人が来て下さいました。最初に開会式で「流浪の民」を歌いました。その後、班にわかれて交流会を始めました。最初に村山くんが外国で行きまきました。最初に村山くんが外国で行きまきました。予定より多くの人が来て下さいました。

最初に開会式で「流浪の民」を歌いました。その後、班にわかれて交流会を始めました。最初に村山くんが外国で行きまきました。予定より多くの人が来て下さいました。最初に村山くんが外国で行きまきました。最初に村山くんが外国で行きまきました。予定より多くの人が来て下さいました。

配食サービスについて

京才小夜子

一回訪問し安否の確認と心のふれあいを深めています。お弁当も旬のものを入れ、やわらかめに食べやすくし、温かいうちに食べもらえるようにしています。

最初に伺った頃は、耳が聞こえにくくて無口だったおばあちゃん。今は楽しそうに話をしてくれます。足が悪くて部屋に閉じこもっておられた人

だつたが、訪問するたびに玄関まで出られるようになり、今は庭に出て好きな花を楽しむこと

もできるようになられ、会話をはずみます。「今日は顔色いいね」と言うと「もう来られる頃じゃ思って化粧して待つてたんよ!」と迎えてくださる。いろいろな出会いがあり、私たちを待つてくださると思う

と、何よりも嬉しく励みになり、また教えてもらうことも多く勉強になります。



住み慣れた地域で暮らしていく。誰もが願いに少しでも手を差しのべることができます。共に生き生きと生きて行きたいと思います。

ボランティアを してみませんか

少子高齢化それに若者の非婚化も増え、家族としての機能も弱まっていきます。家族は極端に少人数化し、一人、二人で生活する世帯が増加しています。昔は家族が支え合って生活していました。そして近隣との人間関係も濃厚でしたが、社会情勢の変化に伴い、現在は希薄になっています。

人は年を重ね身体機能が低下した時、ふと孤独や寂しさを感じるものです。あなたのチヨットした手助けがあれば、安心して暮らすことができます。空いている時間にボランティア活動をしてみませんか？ボランティア活動は、人との出会いから様々なことを学ぶことができます。もっと輝く自分のために、ボランティアをしてみませんか？

ボランティア活動に興味のある方、ボランティアに手助けしたい方は、阿戸地区社会福祉協議会へご連絡ください。

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典の返礼にかえて

平田泰宣様
松ヶ迫智美様
白木崇男様
白木信行様

◆見舞いの返礼にかえて

柚木兼助様
久光智恵子様
キヌエ様
中山道子様
高山義昭様



一口 五千円
申込先 阿戸地区社会福祉協議会

善意の灯

赤い羽根共同募金

今回の募金活動で、阿戸町では皆様の絶大なるご協力により、

三四四、九九〇円

集まりました。

この善意の募金は、広島市で一括して福祉を推進するために有効に活用されます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

中学二年生と高齢者との会議
小地域住民福祉懇談会（第
四区・第五区）
小地域住民福祉懇談会（第
一区）
小学三年生とのふれあい
見学会（横山邸見学）
小地域住民福祉懇談会（第
二区・第六区）
小地域住民福祉懇談会（第
三区）予定

賛助会員 (法人会員)

みんなで進める
地域の福祉

社協が進める事業には、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、ボランティア活動の推進、福祉サービス利用援助事業などがあります。賛助会費はこれらの事業を進めていく上で重要な財源になります。みなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

- ◎毎週月曜日の午後、木曜日の午前、困りごとやボランティア活動の相談に応じる
- ◎毎月（第二土曜日）配食サービスの実施

●阿戸社協のうごき

中学三年生と高齢者との交流会

第二回地域ケアー会議

「あと社協」第一一九号発行

理事・監事・評議員合同会議

第五回理事会

中学二年生と高齢者との会議

小地域住民福祉懇談会（第
四区・第五区）

小地域住民福祉懇談会（第
一区）

小学三年生とのふれあい
見学会（横山邸見学）

小地域住民福祉懇談会（第
二区・第六区）

小地域住民福祉懇談会（第
三区）予定

東日本大震災が発生してからまもなく一年が来ようとしていますが、今なお行方の分からない方々、そして不自由な生活を余儀なくされている人たちのことを思うとき心が痛みます。そういう中、全国各地より様々な形での支援がなされています。

一人ひとりが力を出し合い、助け合う姿に日本人の心の文化を感じます。阿戸地区社協においても地域福祉の向上をしっかりと見据え、あつたかい町づくりに取り組んで行かなければなりません。

「あと社協」は様々な明るい話題を提供し、この町に住んでよかつたと実感してもらえるよう努力して参ります。

皆様方のより一層のご指導、ご支援をお願いいたします。



編集後記